



庭のイチジクの木が枯らされたり、根元からぼつきりと倒れたり経験はありませんか。私は古いツルバラを枯らされたことがあります。犯人はゴマダラカミキリの幼虫でした。いま、幼虫は冬を迎え幹の中で越冬に入ろうとしています。

▼よく知られたカミキリムシ

ゴマダラカミキリは、大型で色々な木を食べるため、日本に分布するカミキリムシの中で最もよく知られた種類です。日本全土に分布し、離れ島では佐渡ヶ島、伊豆諸島、対馬、屋久島に分布します。

成虫の体長は2.5cm〜3.5cmほどで、前翅は光沢のある黒色に白い斑点が並んでいてよく目立ち、ゴマダラ

里山に育む生きものたち

20 ゴマダラカミキリ (コウチュウ目 カミキリムシ科)

学名 Anoplophora malasiaca
(Thomson, 1865)

写真・文 / 小菅 次男

の名はこれに由来します。触角は体長の1.5倍ほどで、オスはメスに比べて触角の長さが長いのです。

▼果樹や街路樹の害虫

幼虫・成虫とも生木を食べますが、食樹が非常に幅広いのが特徴で、ミカン類、イチジク、バラ、ヤナギ、クヌギ、コナラ、クリなど多岐にわたります。果樹や街路樹・庭木にもやっつくので街中でもその姿をよく見ることがあります。

成虫は6月〜8月に発生し、昼夜の区別なく活動し、食樹の葉や若枝の樹皮をかじって食べるほか、食樹の周囲を飛び回ったりします。夜は灯火にも飛来します。また、スイカの皮や落果したモモやスモモなどにも集まり汁を

吸うこともあります。成虫を手でつかむと、前胸と後胸の間のやすりをまさつさせチイチイ音をたてます。

▼幼虫はテツポウムシ

交尾を終えたメスは生木の樹皮をかじって産卵し幼虫（いわゆるテツポウムシ）は生木の材部を食べて成長します。幼虫は成長すると幹内部を下へ降り、根の内部を食い荒らします。成虫になるには、1年かかるものと2年かかるものがあります。幼虫が侵入した木は幼虫の活動によって幹に穴が開き、木くずや樹液が出るようになります。蛹を経て羽化した成虫は木の幹に円形の穴を開け、木の外へ姿を現します。

▼防除するには

成虫が発生し産卵や幼虫の食入が多くなる6月中〜8月上旬に木の全体さから根元に薬剤を散布します。

秋季には幼虫が食入した部分から木くずが出るので、食入口から専用の殺虫剤を注入するか、又は針金を食入口から差し込み幼虫を捕殺します。

また、木の根元に防虫用の金網やプラスチック網を巻いて産卵を防止したりします。

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤 1080 TEL029-292-1111 FAX029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成25年10月31日現在)

◆総人口 34,230人 (-90) 男 17,122人 (-66) 女 17,108人 (-24) ◆世帯 12,565戸 (-43)

DATA

再生紙を使用しています



※環境に優しい大豆インクを使用しています